

令和5年度

今津小学校 学力向上プラン

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 発問の工夫により、児童の思考を深める授業の実践
- 認め合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	佐々木 善史 校長	大西 明子 教頭	吉岡 拓也 教諭
立田 美香		各学年担任		

校長 佐々木善史

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況	次年度における改善事項
<p>○国語科、算数科などの教科については、少しずつではあるが学力の向上が見られる。</p> <p>●学力の二極化が見られ、基礎的な知識・技能が十分定着していない児童がいる。算数や国語では、既習内容が習得できていないため、常に個別支援を必要とする児童もいる。</p>	<p>・音読や漢字、計算等の基礎・基本の学習に根気強く取り組み、確実に身に付けることができる。</p> <p>・問題をしっかりと読み、最後まで丁寧に取組もうとすることができる。</p>	<p>・朝の活動では、定期的に漢字テストを行うなどして、基本的な内容の定着を図るとともに学習への意欲づけをする。</p> <p>・休み時間や放課後など個別指導を行い、学習内容の定着を図る。</p>		<p>・朝の活動やモジュール(国語)では、新出漢字、ミニテストを児童が主体的に行うことで学力が定着した。</p> <p>・各担任が休み時間や放課後などに一人ひとりのつまずきにあわせた個別指導を行い、学習内容の定着やよりよい学習習慣作りに努めることができた。</p> <p>・算数科では、日々の連絡帳に復習問題を提示し、繰り返し復習を行うことで基礎学力が定着しつつある。</p>	<p>・身につけた知識等を表現するために「書く」活動の機会を多く取り入れる。</p> <p>・問題文を読み落とす児童が多いため、最後まで丁寧に読むために「読む」活動を多く取り入れる。</p> <p>・教材研究を通して、児童の実態に合った分かりやすく、一人ひとりを大切に指導を継続していく。</p>

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○授業では、自分の考えを積極的に、または整理して発表できる児童が増えてきている。全校での発表会などでも、自信をもって表現できる。</p> <p>●自分の意見や考えをまとめる力や、情報をしっかりと読み取って答えを導き自分の考えを分かりやすく書く力を伸ばすことが必要である。</p>	<p>・目的に応じて根拠や理由を明らかにしながら自分の考えをまとめ、分かりやすく話したり、書いたりすることができる。</p> <p>・すすんで日記や読書カードを書くことで、自分の考えや思いを豊かにすることができる。</p>	<p>・思考の過程を文章で表現させ、表現力向上に向けてICT等を効果的に活用した授業づくりに取り組む。</p> <p>・読書活動や各教科の時間などで、様々な文章を読み、思考を深める活動を取り入れるとともに、自分の学びを振り返る時間を確保する。</p>		<p>・毎日日記を書いたり、朝の会で日記紹介をしたりして、表現力の向上に努めた。</p> <p>・図書室に週1回行き本を借りる、家庭への持ち帰りに便利な読書バッグを園工で作るなどの図書啓発を行い、様々な文章に親しむ機会を増やした。</p> <p>・ペア学習やグループ学習の機会を多くとり、自分の考えを伝えるようにした。</p>	<p>・朝学習の時間に「新聞を読む日」を設け、印象に残った記事についての感想を書く等、「読み・書き」の量を増やすことで表現力を養う。</p> <p>・各教科においてプログラミング学習を効果的に取り入れたり、ホワイトボードや付箋・ICTを活用したりして、自分の意見や考えを深める活動を取り入れる。</p>

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○めあての提示・振り返りを継続して行うことで学習の全体像をつかむようになり、同時に承認した結果、学習に意欲的に取り組む児童が増えてきている。</p> <p>●できるようにしたいという思いはあるが、科目や活動への苦手意識から消極的になる児童がいる。家庭学習の時間や内容などは十分ではない。家庭での読書が少ない。</p>	<p>・自分でよく考え、学習に主体的に取り組む、学ぶ楽しさを感じることができる。</p> <p>・自主学習ノートを継続するなど家庭学習に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>・読書習慣が身につく。</p>	<p>・ホワイトボードやICTの活用、グループ学習など児童の主体性を引き出す活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・「家庭学習チャレンジ週間」を定期的に実施し、家庭学習の状況を振り返ることができるようにする。</p> <p>・学校図書館活用の啓発を促す。</p>		<p>・めあてや振り返りが記せる秋田式自主ノートを使用することで、毎日自分のめあてを確認して自主学習に取り組ませることができた。自主学習ノートでは、期間を決めて自主ノートコンテストを実施して選ばれたノートを廊下に掲示したり、表彰したりして啓発を図った。また、自主学習ノートを図書室に掲示しようと呼びかけノートの学習内容が向上した。</p> <p>・タブレット等のICTやホワイトボードを活用してグループ学習を行った。お互いの考えを交流することで、自信がついたり、発表したりするなど意欲的に学ぼうとする様子が見られた。</p>	<p>・各教科において、目指す資質・能力を育成できるよう授業改善を進めるとともに、授業や家庭学習ノートの更なる改善を図る。</p> <p>・「家庭学習チャレンジ週間」を引き続き実施し、家庭と連携しながら家庭学習の定着・習慣化を図るとともに、分かりやすい授業づくりに務め、主体的学習に取り組む態度の育成を図る。</p>

令和5年度 学力向上ロードマップ

